

校長先生の初恋物語

第34話 によろひげ先生のによろひげ物語

によろひげ先生のあごには、一本だけ、長くて太い毛がはえていました。とっくんは、その毛のことがいつも気になっていました。だって、どう見たって、じゃまそうに見えます。かっこわるく見えます。「どうして、によろひげ先生は、あごにはえているによろひげをぬかないんだろう。」みんなのきもんでもありました。

によろひげ先生が担任になってすぐの時、まだとっくんが友達がいなかった時です。きんに君が、給食の時に、によろひげのことを質問していました。

「によろひげ先生、どうして先生は、あごからはえているながーいによろひげをぬかないんだチョー。」

その質問は、みんながしたかったことです。でも、勇気がなくてだれも言えなかったことです。空気を読まないきんに君は、こんな質問もずけずけできるんです。みんなは、給食を食べながらも、耳はダンボのようにでっかくなっていました。「によろひげ先生は、なんて答えるんだろう・・・。」

によろひげ先生は、給食を食べ終えて、かん字のまるつけをしていた手を休めて、「んっ？この毛のことを知りたいのかね？」

大切そうにによろひげをなでなでしたあと、信じられない話を始めました。

「この毛には、ふしぎな力があるんだよ。」こう言ってから始めたによろひげの話は、うそみたいな話でした。でも、によろひげ先生は真剣な顔で、その話をしてくれました。

によろひげ先生が、高校生の時です。ある夏の夜、ねていたら、長くて白いひげをはやしたおじいさんがによろひげ君のおなかの上



にいたそうです。夢なのか現実なのか、その時は判断できなかったのですが、そのおじいさんが高校生のによろひげ君に言ったんです。

「あごひげを伸ばしなさい。伸ばしたら、いいことが起こるよ。」って。

次の日の朝、によろひげ君は、かがみを見てびっくりしたそうです。もともとひげが生えにくい人だったのに、あごのほくろから、太いひげが一本、1センチくらい出ていたそうです。によろひげ君は、気持ち悪くて、すぐにカミソリでそってしまいました。すると、その日、理科実験部で実験をしたとき、しっばいをしてによろひげ君はかみの毛をちりちりに燃やしてしまったそうです。ひげをそったのがよくなかったのかなと思い、次の日から、ためしにひげが伸びるようにしたそうです。

ひげを伸ばしはじめて、まわりの友達からもそうとう言われたそうです。「かっこ悪いからそれよな。」って。でも、によろひげ君はそらなかった。そして、そのあごの毛が10センチぐらいになった時、ほんとうにによろひげ君にいいことが起こったんです。



その日、によろひげ君は、学校帰りにだがし屋さんにより、アイスクリームを買いました。そのアイスクリームが「ホームランバー」です。ホームランバーは、当たりつきのアイスでした。アイスにさしているうちに、ホームランとかいてあると、もう一本ホームランバーがもらえるんです。

によろひげ君は1本目のホームランバーを食べました。すると、ホームラン。当たりが出ました。によろひげ君は大喜びで、2本目のホームランバーをもらって食べました。すると、その2本目も当たりです。2回づけてホームランが出るなんて、めったにないことです。によろひげ君は、3本目のホームランバーも食べました。すると、その3本目も当たり。3回連続ホームランなんて、お店の人にも初めてだと言ったそうです。でも、まだまだホームランは終わりません。 つづく

次回予告 によろひげ君の特大ホームラン

